



著者プロフィール

岩田由美（いわた・ゆみ）

昭和36年 岡山県岡山市に生まれる。
昭和62年 俳誌「青」入会。
平成元年 第35回角川俳句賞受賞。
平成3年 波多野爽波主宰死去により「青」終刊。
平成8年 句集『春望』刊。
平成14年 句集『夏安』刊。
俳誌「藍生」・「屋根」に所属。

〈句集『花束』より転載〉〈2010年7月29日時点〉

『花束』

（自選15句）

岩田 由美

春なれや水の厚みの中に魚
春雷を聞き逃がしたるかと思ふ
墓交む似たやうな顔うち重ね
家からも見ゆる桜に歩み出づ
合歓に蝶一度は閉らし翅広げ
緑蔭の幹といふ幹濡れてをり
風の音次第に近し今遽に
本持ちて明るき方へ避暑の宿
三人に見つめられゐて西瓜切る
野分来ることに少年浮き浮きと
秋草の近づけばみな花つけて
水澄みて長き藻のその汚れやう
葉陰なる真葛の花に夕明り
目をつむるたび暗くなる秋の暮
二度となき雲のかたちよ冬の空